

2013年9月号



# 社会福祉法人 葦の家福祉会だより

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4-1-17  
☎Fax.092(873)7481 E-mail.asinoie@blue.ocn.ne.jp



## こころをひとつに

今年を経験した事がない暑い夏でした。ようやく朝・夕の風に秋の気配を感じます。さて、葦の家福祉会も法人として平成10年6月に通所更生施設（現在生活介護）事業のスタートから15年が過ぎました。たった1人の仲間から始めた無認可作業所時代も含めると29年になります。この29年間願っていたケアホーム作りでしたが、今年H25年6月1日より6名の方に利用していただいています。体験利用の方も加えると7名の方が利用されています。まだまだ戸惑ったり、踟躇っている人もおられますが、あっという間に3ヶ月がたちました。

このホーム作りに関しましては、町内はもとより、城南区、福岡市、遠くは全国から多くの人にご協力いただいて知恵と愛と力をいただきました。準備金基金の依頼にも、地域・学校・企業とその方々の友人、知人の人達が心をこめてご協力いただきました事には唯々、感謝でいっぱいです。福岡市のご努力もあり、現生活介護施設の隣に市有地を借用（有償ですが）することも出来ました。又制度面では、全国でも32名のみにも適用されているという、重度障がい者等包括支援制度を3名の方が利用されています。

新しい建物を「りーど」、ホームを「すてっぷ」と名付けました。センター長には生活介護施設の前施設長が就任しています。生活介護施設には5月から信頼の厚い施設長が就任しました。りーど、すてっぷは新しい事業の為、利用者の方もこれから慣れていかれると思います。中でも職員の緊張は心身ともに頂点に近いと思われます。が、心を一つにして頑張っています。掃除等のボランティアをして下さる保護者の皆様にも助けられて、利用して下さるお一人おひとりにとって、本当に普通の大人としてすてっぷが我が家に近くなりますようお願い、日々勉強しながら、今こそ法人全体で環境づくりに取りくむ時だと思っています。これからも変わらずご支援とご鞭撻をお願いいたします。

理事長 大石 敏子



## 葦の家の歴史を引継ぐ

葦の家福祉会の基本理念は、

- 1 常に障がい者の立場に立った実践と経営を行う
- 2 地域にねざした実践と経営を行う
- 3 関係者一人一人の意見を大切にし、開かれた経営を行う
- 4 関係者にとどまらず、幅広い地域の福祉問題に目を向けた事業を行う

を掲げ、障がいがあっても地域の中でふつ々の暮らしを築く努力を重ねてきた事業所であることは多くの方々から評価を受けているところです。これまで、利用者や地域のニーズに応える事業整備を行い、平成25年6月よりケアホームを開所したところです。今後、第2、第3のケアホーム整備及び一般就労を含む就労支援事業の展開も視野に入れる時期にさしかかったところと思います。

そのような時期に生活介護事業葦の家管理者として友廣道雄 前施設長から引継ぎを受け、5月1日に赴任をさせていただきました「小関 正利（こせき まさとし）」でございます。葦の家は、昭和60年4月「若久共同作業所葦の家」を開所し、無認可作業所としてスタートを切りました。昭和63年5月には、南区野多目に作業所を移転し活動を休むことなく続け、念願であった社会福祉法人認可を受け、平成10年6月に「知的障害者通所更生施設葦の家」が開所しました。

葦の家が無認可共同作業所時代に私は、若久養護学校教諭として勤務しており、進路係として夜中まで終わることのない、葦の家の運営委員会に出席をしていた記憶があります。感想は言うまでもなく、何とすごいエネルギーを持った人たちなのだろうかという驚きを感じたことを今でも忘れません。その後の私は、南福岡養護学校～国立特殊教育総合研究所（当時の名称）短期研修～市教委発達教育センター～東福岡養護学校～南福岡養護学校～市教委発達教育センター～若久特別支援学校～東福岡特別支援学校校長を務め平成25年3月に退職いたしました。ご縁があり5月より葦の家管理者を務めさせていただくことになりました。

さて、平成25年度葦の家福祉会の基本方針は、法人本部体制を整備し、法人全体に関する執行業務の一体化、効率化、理事会、評議員会の経営判断の向上、監督体制の強化を図っていくことです。管理者、責任者からなる定例事務会議、運営会議等により事業執行の連携を図ることやサービス評価を実施し、サービス提供、運営体制を点検するなどの方針をもって取り組んでいます。その中には、業務計画による目標志向型の業務指導及び人事考課体制の整備や管理者、主任、リーダー、中堅、初任、非常勤等各階層に応じた教育研修を行う。経営や支援に関して専門家からのスーパーバイズ機能を活用すること等が掲げられています。

葦の家では、ケアホームのバックアップのため、ホームスタッフの応援を行うことや作業支援の中核を担っている創作・アート活動を将来的な事業化をめざし、体制を強化するなど就労支援を視野に取組を進めます。また、3年間の見通しを持った職員研修に取り組み、支援員の資質向上に努めてまいります。

具体的には、

- (1) 行動障がいを伴った自閉症スペクトラム障がいへの理解と支援
- (2) 仲間のQOL向上に向けた支援場面の構造化
- (3) 葦の家での生活評価（個別支援計画と評価活動）
- (4) 支援力向上のためのスキル獲得研修やツール開発
- (5) 知的障がい、病虚弱者への支援及び肢体不自由者への理解と支援

が挙げられます。そのため所内研修の充実や事業所内の自主研修企画を行い、葦の家の支援員として誇りが持てる実践を創造したいと考えています。今後とも、葦の家の仲間に対する理解の輪（和）が広がり、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

生活介護事業葦の家  
福岡市屋形原特別支援学校放課後等支援事業  
管 理 者 小 関 正 利

## 平成 25 年度事業計画

1. 法人本部体制及び本部長による統括、調整体制及び専従事務体制により経営、執行、監督体制を強化し、サービス評価を実施する。
  2. 日中活動部門と在宅支援部門の 2 部門体制により各事業の着実な整備を行う。
  3. 新会計基準に拠る財務、経理体制の整備を行う。3つの拠点区分を設ける。
  4. 職員の人事・労務・教育のノウハウ作りに取り組む。
    - ・業務計画による業務指導、人事考課体制の整備
    - ・各階層に応じた教育研修の実施
    - ・時間管理、メンタルヘルスケアなど確実な労務管理
    - ・スーパーバイズ機能の活用（役員、社労士、税理士、ドクター、学識経験者等）
  5. ケアホームの着実な支援、運営体制の整備を行う。
  6. 役員、評議員の定期改選を行う。
  7. 次期中期計画構想（H27～31 年）検討を開始する。
  8. 地域に根ざした支援や地域に貢献しうる地域交流に努める。
  9. ニーズに応じた資源開拓や制度改変により当事者の地域生活が後退しないよう、学習、運動をすすめる。障がい種別を越えた当事者団体と連携する。
- \* 重度障がい者等包括支援事業を 3 名に適用し、共同生活介護も含む包括的支援を行う。  
\* 日中一時支援の障がい児利用者の放課後児童デイサービス移行を検討する。

## 平成 24 年度事業報告

### 【実施事業】

- 障がい福祉サービス…生活介護 短期入所 居宅介護 行動援護 同行援護 計画相談
- 地域生活支援事業 …日中一時支援（福岡市、宇美町）、移動支援
- 福岡市委託事業 …福岡市城南区知的障がい者相談支援センター  
福岡市屋形原特別支援学校放課後等支援事業
- 公益事業…介護員養成研修事業
- 福岡市社会福祉施設整備費等補助金交付事業

### 【方針の総括】

1. 社会福祉施設整備費等補助金交付事業の適用を受け、ケアホーム及び地域生活支援センターの施設整備を行った。（次年度にまたがる 2 ヶ年事業となった）
2. 業務計画指導、中堅、幹部候補スタッフの育成、非常勤スタッフの教育、労務管理が不十分であった。
3. 町内会、自治協議会、社会福祉協議会、夏祭り、公民館文化祭、運動会、もちつき、懇談会、清掃活動等の地域活動に年間を通して参加した。
4. 監査、人事・労務・予算執行管理・事業間調整等の法人事務体制が不十分であった。新会計基準移行の準備を行った。
5. リスクマネジメント、人権擁護研修委員会を 2 ヶ月ごとに行ったが、介護事故を 1 件発生させ、体制の見直しを行った。
6. 在宅支援事業の安定化を図ったが、ショートステイのスタッフ確保、管理が難しく、介護事故を起こす要因となった。相談支援は、福岡市地域生活支援協議会の城南区部会の立ち上げを事務局として行った。
7. 桧原事業所を消防法、建築基準法により改修、葦の家の従たる事業所として整備した。
8. 東日本大震災被災地支援として福島県南相馬市に 1 週間単位で 4 人派遣した。
9. 人権擁護委員会を開催し、各事業所の利用者に対する支援のチェックを定期的に行い、権利擁護規程を策定した。

## 葦の家事業報告

### 1. 利用実績

定員 35 名、利用実績契約者 49 名、  
延べ利用者 10780 名、平均利用者 42.1 名  
開所日数 256 日、出勤率 85.9%

### 2. スタッフ

管理者 1 名、サービス管理責任者 1 名、  
生活支援員 14 名、非常勤支援員 10 名  
看護師非常勤 1 名、事務員 2 名(非常勤 1 名)  
調理員 3 名(非常勤 2 名)嘱託医 1 名  
(長尾病院)



### 3. 支援

- ①平成 25 年開設のケアホームへ向けて、宿泊プログラムを実施した。
- ②5つのクラブ活動を行った。(音楽・よさこい・手芸・ネイチャー・ボランティア)
- ③長尾病院の作業療法士・理学療法士と連携し、廃用症候群防止・健康維持のための継続学習会を開催した。
- ④主な作業・活動  
パッキンの型抜き、アルミ缶回収整理、公園清掃、農園作業(児嶋様宅農園)  
地域ニュース配達、班外出活動、講師音楽レクリエーション など
- ⑤宿泊学習支援
- ⑥授産品売上 4,849,238 円 工賃支給 1,557,000 円/平均月額 2,647 円
- ⑦創作活動実績



□授産新商品;衣類、小物 12 品目

- 外部取引;げんべい、伊勢丹新宿本店・そごう横浜店  
JR 東海高島屋・パルコ福岡店・五洋建設株式会社・箱根彫刻の森美術館、ほのぼの博多・パティスリーコイデ  
ヒバリカフェ・特別支援学校おやじ隊 堤公民館認知症  
サポーター講座・社会福祉法人のぞみの里 堤地区・堤丘  
校区人尊協 だんだんボックス連携;博多埠頭アートコンテ  
ナ、2013 年カレンダー福岡トヨペット・西日本シティ銀行
- 外部コンクール・展示会;7 展示会出品、入賞 1 名  
入選 4 名、ライブペイント活動など

### 4. 事業

- ①地域交流…運動会、公民館文化祭、樋井川 4 丁目夏祭り、川、山の清掃活動  
わはは祭り開催、長尾中学校交流 など
- ②ボランティア受入れ…延べ 730 名
- ③実習生・研修生受入れ…特別支援学校 8 名・社会福祉士 4 名、小中学生、教諭 7 名
- ④健康診断、消防避難訓練各 2 回実施
- ⑤職員研修…外部研修 5 回、内部研修 3 回(介護技術、メンタルケア、応接)  
行動障がい、自閉症研修が手薄になった。
- ⑥送迎…7 コース 38 名利用、給食提供

#### 短期入所葦の家

1. 3事業所にまたがるサービス提供を統括する運営、シフト調整が困難を極めた。
2. 入浴介護事故を起こしたが、各人の業務、ホーレンソウのライン、業務マニュアルの不明確さがあり、ライン、マニュアルの整備、全スタッフへの周知、徹底。の改善を継続中である。
3. 消防避難訓練を実施した。

4.「福岡市強度行動障がい者支援モデル事業を適用実施した。

5.利用実績

短期入所 355名(葦の家181名、桧原事業所174名)  
…障がい児41名、強度行動障がいのある方88名  
日中一時支援776名(葦の家540名、桧原事業所187名)  
…障がい児187名、強度行動障がいのある方114名

ヘルプステーションほっとほっと

平成24年度事業報告

1. 事業内容

障がい福祉サービス(居宅介護、行動援護、重度訪問介護、同行援護)  
福岡市地域生活支援事業(移動支援、生活サポート)

2. スタッフ 管理者1名、サービス責任者2名

常勤ヘルパー3名、登録ヘルパー27名

3. 実績(延べ利用件数)

サービス	居宅	行動援護	同行援護	重度訪問	移動支援	総計
年間件数	4,053	963	25	6	1,799	6,846

契約者数113名(身体障がい者10名 知的障がい者68名 精神障がい者6名 知的障がい児49名)

4. 苦情受付 1件

平成25年度事業計画

1. 新事業所に4移転、安定した事業運営と新スタッフ体制の構築を図る。

①ご利用者、ご家族様のニーズに対応できるよう3班の支援体制で臨む。

(知的障がい・身体障がい・ケアホーム)班、(就学前、小学部)班、(中・高等部)班

②ケアホームすてっぷ班専属の担当者の配置

③収支の安定化を図る(利益率10%)、毎月運営会議で検証し収支をチェックする

④地域生活支援センター「りーど」内の連携体制を構築する

⑤法人本部との連携システムを構築する

2. 成人者の生活支援、障がい児支援ともに他の社会資源(学校、病院、支援センター、施設、他事業所等)との連携を図り、ホームヘルプの支援の意義を確立していく。

3. 行政、民間協、生活支援事業所連絡会、福岡市障がい者地域生活支援協議会、きょうされん等に現場のニーズや支援の意義を伝え、制度の改善を図っていく。

今年で当事業所は8年目を迎えることが出来ました。5月に移転、6月にケアホーム「すてっぷ」、重度障害者等包括支援事業の開設や「りーど」での短期入所も始まりました。

私たちは、この上記の事業に携わることができ社会福祉法人としての役割を実践を通して感じています。ホームヘルプサービスも在宅福祉の一つとして自己研鑽を行い、心の声に気づける事業所を目指していきます。

管理者：豊村 佳代子



## 福岡市城南区知的障がい者相談支援センター

### 25 年度事業方針

1. 所長含む 4 名のスタッフ配置により委託相談と計画相談の運営体制を築き、連絡・報告・決裁・情報共有のラインと業務分担を整備する。
2. サービス等利用計画を年間 16 件作成する。
  - ・アセスメント～ニーズ整理～計画～モニタリングの進行管理を確実に行う。
  - ・請求事務をルーチンワーク化する。
  - ・既存資源への落とし込みに陥らず、ニーズに沿ったケアマネジメントを心がける。
3. 相談支援の資質を高める。
  - ・インテーク～アセスメント～ニーズ整理～支援方針等ケース検討も含むケース管理を行い様式の工夫を行う。事例検討会を開催し、スーパービジョンやロールプレイを実施する。
4. 「りーど」内のラインや法人本部と連携し情報の共有を図る。
5. 相談支援・社会福祉全般に関する研修プログラムを実施する。
6. 福岡市障がい者等地域生活支援協議会について、地域の社会資源や法人内事業所への啓発学習会を実施する。

### 24 年度の相談実績

1. 委託相談；延べ件数 3,636 件  
(1 日平均 10 件程度)  
実人数 男性 60 名、女性 21 名、不明 5 名  
(合計 86 名) 個別支援会議開催数 3
2. 計画相談；平成 24 年 8 月から 1 件実施、  
個別支援会議開催数 6 回
3. 相談の傾向；社会的な接点がなくひきこもり状態にある方の支援や以前施設入所調整したケースについて退転園の相談が数件あった。2 件の虐待事案について市在宅支援課・区福祉介護保険課と連携して対応終結した。継続的に支援していた方々を計画相談に移行し 4 名と計画相談支援の契約を行った。



## 福岡市立屋形原特別支援学校放課後等支援事業

### 平成 24 年度事業報告

1. **スタッフ体制** 管理者 1 名、責任者 1 名、補佐 2 名、非常勤スタッフ 15 名  
9 月より責任者を仲村成司から上片野亮に責任者交替を行った。
2. **利用者実績**  
延べ利用者数…どんぐりルーム 2629 名、たけのこルーム 113 名  
小学部 5～6 年(3 部)、中学部児童の利用が多い。行動障がいの強い児童にはマンツーマン支援を行っている。
3. **事故予防**  
利用者の事故は無かった。リスクマネジメント研修を行い、1 ヶ月ごとのヒヤリハット報告書を集約・分析し、スタッフ間で研修にて報告、協議を行った。
4. **関係機関との連携**
  - ・特別支援学校支援部コーディネーターによる連携支援参加
  - ・児童の担任や管理職との情報交換

- ・福岡市による運営法人連絡会議、責任者部会会議への参加
- ・保護者会総会、保護者会役員会参加
- ・長期休み前の学校との協議
- ・グラウンドを利用する少年野球チームとの協議 など

## 5. 支援内容

### どんぐりルーム

DVD鑑賞や遊具遊び・絵本読み・絵描き工作  
プレイルームや図書室、廊下の三輪車・ワゴン  
活用、運動場での遊具・ボール・自転車  
遊び等の活動を行なった。地域の公園散歩  
夏休み水学習室で水遊び、節分、七夕、ハロ  
ウィン、Xマス会など時季に合わせた行事  
活動を行った。



### たけのこルーム

DVD鑑賞や絵描き、工作、プレイルームでの遊具遊びや図書室での活動、探検ごっこ、  
近隣公園への散歩、運動場での野球やサッカー等のボール遊び、自転車遊びもよく行  
った。

## 職員人事異動

### 【採用】

#### □葦の家・短期入所

小関正利(施設長)

工藤広大 岡村亜紀 堤彩香 福島由佳 松隈愛子 久田博久 井上尚子  
山田幹子 古嶋協一郎 武田豊茂 中西和(以上生活支援員)

矢野明美(事務員)

#### □ヘルパーステーションほっとほっと

梶原翔平(支援員)

#### □福岡市城南区知的障がい者相談支援センター

重松宏美(相談支援員)

#### □ケアホームすてっぷ

高木沙智 永田早苗 陶山英明 太田誠司(生活支援員)

#### □福岡市屋形原特別支援学校放課後等支援事業

中島和博(責任者補佐)

### 【移動】

友廣道雄:葦の家→法人本部長、障がい者地域生活支援センター「リード」センター長  
(ケアホーム・相談支援センター・短期入所各管理兼務)

### 【任命】

豊村佳代子:障がい者地域生活支援センター「リード」副センター長

### 【退職】

吉田勇 白石賢樹 穴井慎一郎 井上尚子 (7月末日付常勤雇用職員のみ掲載)

「ケアホームすてっぷ」「障がい者地域生活支援センターリード」の開設に際しまして、福岡市、地域、関係機関・団体・事業所をはじめ多くの皆様のご支援をいただきましたこと深く感謝申し上げます。整備したハードを活用し、新体制のもとスタッフ一丸となって、地域の障がい児者の方々の日中活動、生活支援両面の充実を図って行きます。これからもよろしく願い申し上げます。

法人本部長 友廣道雄

平成 24 年度社会福祉法人葦の家福祉会決算報告書

平成 25 年 3 月 31 日

【貸借対照表】

勘定科目	総計	本部	葦の家	ほっとほっと	支援センター	放課後支援	介護員研修
流動資産	173,556,971	57,378,964	72,343,231	31,473,896	4,950,810	7,372,976	37,094
固定資産	208,425,109	74,962,680	132,315,551	770,172	376,706		
(基本財産)	93,966,025	5,871,280	88,094,745				
(その他の固定資産)	114,459,084	69,091,400	44,220,806	770,172	376,706		
資産の部合計	381,982,080	132,341,644	204,658,782	32,244,068	5,327,516	7,372,976	37,094
流動負債	61,353,213	37,786,750	7,752,653	6,548,357	5,108,685	4,156,768	
固定負債	25,000,000	20,000,000	5,000,000				
負債の部合計	86,353,213	57,786,750	12,752,653	6,548,357	5,108,685	4,156,768	0
基本金	41,114,081	1,000,000	40,114,081				
国庫補助金等特別積立金	57,975,231	4,199,640	53,407,257	368,334			
その他の積立金	33,489,238		33,489,238				
次期繰越活動収支差額	163,050,317	69,355,254	64,895,553	25,327,377	218,831	3,216,208	37,094
(うち当期活動収支差額)	41,519,104	53,319,756	-18,935,117	6,847,097	161,210	869	125,289
純資産の部合計	295,628,867	74,554,894	191,906,129	25,695,711	218,831	3,216,208	37,094
負債及び純資産の部合計	381,982,080	132,341,644	204,658,782	32,244,068	5,327,516	7,372,976	37,094

【資金収支計算書】

勘定科目	総計	本部	葦の家	ほっとほっと	支援センター	放課後支援	介護員研修
経常収入計	297,736,832	55,111,632	152,518,551	54,801,421	10,424,484	24,144,644	736,100
経常支出計	252,329,339	1,763,431	167,802,497	47,897,049	10,111,776	24,143,775	610,811
経常活動資金収支差額	45,407,493	53,348,201	-15,283,946	6,904,372	312,708	869	125,289
施設整備等収入計	2,000,000		2,000,000				
施設整備等支出計	75,206,285	69,091,400	5,554,080	283,920	276,885		
施設整備等資金収支差額	-73,206,285	-69,091,400	-3,554,080	-283,920	-276,885	0	0
財務収入計	42,236,934	20,000,000	22,236,934				
財務支出計	1,031,415		1,031,415				
財務活動資金収支差額	41,205,519	20,000,000	21,205,519	0	0	0	0
当期資金収支差額合計	13,406,727	4,256,801	2,367,493	6,620,452	35,823	869	125,289
前期末支払資金残高	98,797,031	15,335,413	62,223,085	18,305,087	-193,698	3,215,339	-88,195
当期末支払資金残高	112,203,758	19,592,214	64,590,578	24,925,539	-157,875	3,216,208	37,094

【事業活動収支計算書】

勘定科目	総計	本部	葦の家	ほっとほっと	支援センター	放課後支援	介護員研修
事業活動収入計	256,887,459	11,676,215	154,981,395	54,928,074	10,423,375	24,142,400	736,000
事業活動支出計	214,182,726	1,969,734	134,196,808	44,084,324	10,263,274	23,057,775	610,811
事業活動収支差額	42,704,733	9,706,481	20,784,587	10,843,750	160,101	1,084,625	125,189
事業活動外収入計	43,901,864	43,613,275	281,789	3,347	1,109	2,244	100
事業活動外支出計	43,767,415		38,681,415	4,000,000		1,086,000	
事業活動外収支差額	134,449	43,613,275	-38,399,626	-3,996,653	1,109	-1,083,756	100
経常収支差額	42,839,182	53,319,756	-17,615,039	6,847,097	161,210	869	125,289
特別収入計	2,351,721		2,351,721				
特別支出計	3,671,799		3,671,799				
特別収支差額	-1,320,078	0	-1,320,078	0	0	0	0
当期活動収支差額	41,519,104	53,319,756	-18,935,117	6,847,097	161,210	869	125,289
前期繰越活動収支差額	99,294,279	16,035,498	61,593,736	18,480,280	57,621	3,215,339	-88,195
当期末繰越活動収支差額	140,813,383	69,355,254	42,658,619	25,327,377	218,831	3,216,208	37,094
積立金取崩額	22,236,934		22,236,934				
積立金積立額	0						
次期繰越活動収支差額	163,050,317	69,355,254	64,895,553	25,327,377	218,831	3,216,208	37,094